

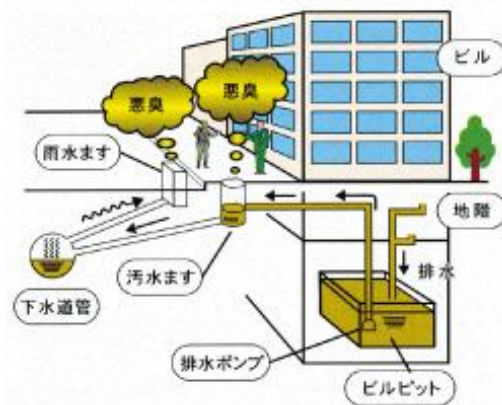
1.6 臭気対策

(1) 臭気発生の現状

ビルの地下部分には、汚水、雑排水、厨房用排水等を下水道管に放流するまでの間、一時貯留するための排水槽（ビルピット）がある。

排水槽中で腐敗が進行すると、下水道管への放流時に、雨水ます等から悪臭を発生させる場合がある。

本市では、特に吉祥寺駅周辺において、臭気に関する苦情が寄せられている。



出典：東京都下水道局 HP
ビルピット臭気発生

平成13年から17年にかけて現地の実態調査や対策の検討、実証実験を行い、対策に必要なビルピットが判明した。

この結果を受けて、平成21年度よりビルの地下に設置される排水槽等の改善工事のための助成制度を実施している。

(2) 今後の課題

1) 効果的な臭気対策の検討

定期的な下水道管の清掃、防臭器具の設置等、効果的な臭気対策の検討を引き続き進める必要がある。また、ビルピット所有者に対し、臭気抑制の協力を要請する。

2) 助成制度のさらなる充実

助成金の増額等、現行の助成制度をさらに充実させるよう検討を進める必要がある。

1. 7 水循環の 再構築

(1) 水循環の現状

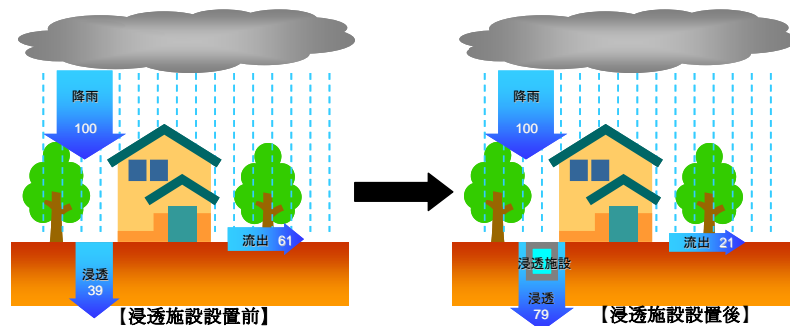
下水道に関する市民のニーズは多様化しており、浸水対策だけでなく、身近な水辺の創出、湧水の復活、生物多様性の向上、ヒートアイランド現象の緩和等の総合的な環境分野に広がりつつある。

このような中で、平成 23 年には有識者や市民等からなる武蔵野市雨水利活用懇談会が発足し、水環境のあり方について本市に提言を行った。また、平成 24 年には懇談会の提言を受けて、市民や事業者との協働による水環境の保全を理念とする雨水利活用条例を制定し、これに基づき学校等の公有地への雨水貯留浸透施設の設置、民有地における雨水貯留浸透施設設置の助成等を実施してきた。

(2) 今後の課題

雨水貯留浸透施設の設置の推進

既に設置した雨水貯留浸透施設の適切な運用、維持管理を行うとともに、重点地区を定めて各地区の特性に応じた貯留浸透施設の整備等を推進する必要がある。また、民有地における雨水貯留浸透施設設置に対する助成も継続する必要がある。



戸建住宅の雨水浸透のイメージ